

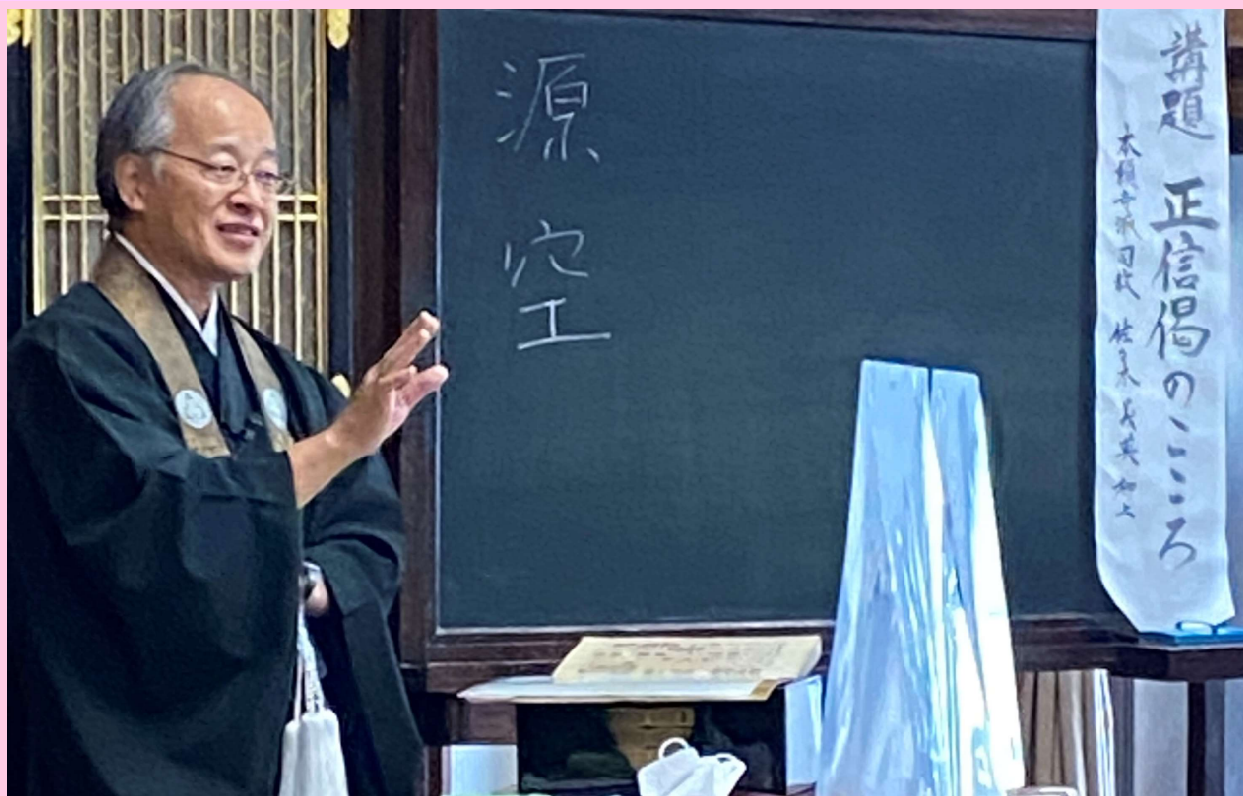
令和5年3月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
発行責任者
永原智行



この娑婆しゃばでお念仏の身と
ならせていただく
西方浄土さいほうじょうどに一つの蓮はすが開きます
これは私が浄土に生まれる

予約席なのです

若林真人著『いのちのゆくえ』から



第27回真宗法座 (由良町里蓮専寺にて)

ヒダカくん・ひかりちゃんの

『御文章』のお話その22

易往而無人章
いおうにむにんしやう

しづかにおもんみれば、それ人間界じんがいきの生を受くることは、まことに五戒ごがいをたもてる功力くりきによりてなり。これおほきにまれなることぞかし。ただし人界じんがいの生はわづかに一旦いつたんの浮生ふしやうなり、後生ごしやうは永生ようしやうの楽果らつかなり。たとひまた榮華えいがにほり榮耀えいようにあまるといふとも、盛者しょうじや必衰ひつすい会者えいじや定離ぢやうりのならば、ひさしくたもつべきにあらず。ただ五十年・百年のあひだのことなり。それも老少らうしやう不定ふぢやうときくときは、まことにもつてたのみすくなし。これによりて、今の時の衆生しゆじやうは、他力の信心しんじんをえて浄土じやうどの往生じやうじやうをとげんとおもふべきなり。そもそもその信心しんじんをとらんずるには、さらに智慧ぢぢもいらず、才学さいがくもいらず、富貴ふきも貧窮ひんきやうもいらず、善人ぜんじんも悪人あくじんもいらず、男子なんしも女人にょじんもいらず、ただもろもろの雜行ぞうぎやうをすてて、正行じやうぎやうに帰するをもつて本意ほんいとす。その正行じやうぎやうに帰するといふは、なにのやうもなく弥陀みだつた如来じゆらいを一心いっしん一向いっかうにたのみたてまつる理ことわりばかりなり。かやうに信ずる衆生しゆじやうをあまねく光明くわうみやうのなかに撰取せんしゆして捨てたまはずして、一期いちごの命いのち尽つきぬればかならず浄土じやうどにおくりたまふなり。この一念いっぺんの安心あんしん一つにて浄土じやうどに往生じやうじやうすることの、あら、やうもいらぬとりやすの安心あんしんや。されば安心あんしんといふ二字ふたごをば、「やすきころ」とよめるはこのころなり。さらになにの造作ぞうさくもなく一心いっしん一向いっかうに如来じゆらいをたのみまゐらす信心しんじんひとつにて、極樂ごくらくに往生じやうじやうすべし。あら、このころえやすの安心あんしんや。また、あら、往いきやすの浄土じやうどや。

これによりて『大経』(下)には「易往而無人」とこれを説かれたり。この文のころは、「安心をとりて弥陀を一向にたのめば、浄土へはまゐりやすけれど、信心をとるひとまれなれば、浄土へは往いきやすくして人なし」といへるはこの経文のころなり。

次ページへ

かくのごとくころうるうへには、昼夜朝暮にとなふるところの名号は、大悲弘誓の御恩を報じたてまつるべきばかりなり。かへすがへす仏法にころををどめて、とりやすき信心のおもむきを存知して、かならず今度の一大事の報土の往生をとぐべきものなり。

あなかしこ、あなかしこ。

◎ 語句

功力(くりき)：功德力。

一旦(いったん)：短い時間。わずかの間。

浮生(ふしよう)：定まりのない、はかない一生。

永生の樂果：往生して無量寿の仏果を得て永く楽しむこと。

盛者(しようじゃ)：必衰会者定離：勢いの盛んな者も必ず衰え、会う者も必ず離れるということ。

才学：学才・学識。

正行：仏の教えにもとづいた正しい実践。

一期の命：この世での寿命。

やうもいらぬ：はからいのいらぬ。

易往而無人：「行き易くして人なし」(信巻訓)

昼夜朝暮：一日中

弘誓：ひろきちかひという意。弘願と同意。

一大事：迷いを転じさとりを開くこと。

◎ 現代語訳・大意

人間に生まれることは五戒をたもった功德によるのであり、まことにまれなことです。しかし、人生は短くはかないもので、たとえ榮華をほこっても、盛者必衰会者定離のならいで久しく続くものではなく、しかも老少不定なのです。人の世はあてにはなりませぬ。ですから私たちは他力の信心を得て、浄土往生を願うべきなのです。

その信心を得るには、智慧も学識も必要ではなく、貧富や善悪や男女といった違いも一切関係なく、ただ自力のはからいを捨て、二心なく阿弥陀如来をたのむ

ばかりです。み仏はこのように信じるものを光明の中におさめとつて、命が終ればかならず浄土に生まれさせてくださるのです。この信心一つで浄土に往生することのたやすさから、「安心」というのです。『大経』の「易往而無人(行き易くして人なし)」というのは、信心を得れば浄土に往生するのは易しいが、信心を得る人がまれであるから、浄土には行きやすい人がいないということです。

このように信心のいわれを心得た後に私たちが称える念佛はすべて、本願のはたらきによつてお救いくださるご恩を報じるものです。仏法をよく聞いて、なんのはからいもいらぬ信心のいわれを知り、浄土往生をとげるようころがけなさい。

ひかりちゃん 五戒をたもつてどうということなの？

ヒダカくん 蓮如上人の時代ぐらいまでは、前世で五戒を持っていた人だけが再び人間に生まれ変われると思つていたんだ。

ひかり 五戒つて。

ヒダカ 不殺生戒(いのちのあるものを殺さない)

不偷盜戒(盗まない) 不邪淫戒(みだらな関係を持たない) 不妄語戒(うそを言わない) 不飲酒戒(酒を飲まない)だよ。

ひかり こんな一つでも守ってる？

ヒダカ 当然だよ、全部守っているよ。

ひかり そうね、『西遊記』の猪八戒は、八つも戒を守っているわね。

ヒダカ 儂ははブタか。

ひかり 私はこんなの一つも守れないから、御門主から「法名」はいただいているけれど、「戒名」はいただいでいないわね。

ヒダカ そのとおりだよ。僕たち真宗の門徒は、こんな戒など始めから守れないもので、そういう人間ということ親鸞聖人や蓮如上人は見抜いてくださっているんだ。

こんな罪業深い身の私が、人間として生まれるのはただだ不思議な縁によるものなんだよ。

ひかり へえ、そうなんだ。

ヒダカ さらに、蓮如上人の時代でさえ体制化儀式化したものを、個人の苦を解放することから始まる仏教に戻るように革新しなければならなかったんだね。しかしながら、現在はその儀式でさえ危うい時代だともいえるんだよ。昔だったら、念珠の持ち方などは人に教えられなくてもできたのに、核家族が進んで、右手か左手に持つのかもわからない人が増えて(左手です)、仏壇のお荘厳も無茶苦茶になっている。儀礼はいけない親鸞聖人の精神に戻れといわれた時代は、きつとこういう初歩的なことは誰でもできて、そんな誰でもできていたのをあれこれいわず、精神こそ大切だといっていたのでしよう。今は、すべてが混沌として何が何やらわからない時代だ。せめて仏さまを拜むときは念珠に手を通して拝みましょう。これから始めなければいけないのかも。真宗のベースクナ事ができずに、雑行雑修に人が陥ってしまったのが今の時代なんだろうね。

星のお星は

めにみえぬ

見えぬけれど

もあるんだよ

見えぬものでも

もあるんだよ

一金子みずす



新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）についてのご消息が発表される

専如ご門主は2023年1月16日、御正忌報恩講法要ご満座に続いて御影堂で「ご消息」を發布されました。蓮如上人から続く『領解文』とは別のもと位置付けていますが、今後どのように用いられるのか注目が集まります。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
 私の煩惱と仏のまごころは 本来「つゆえ
 「そのまま救う」が 弥陀のよび声
 ありがとう といたいて

この愚身をまかす このままで
 救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
 宗祖親鸞聖人と
 法灯を伝承された 歴代宗主の
 尊いお導きによるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
 少しずつ 執われの心を 離れます
 生かされていることに 感謝して

むさぼり いかにに 流されず
 穏やかな顔と 優しい言葉
 喜びも 悲しみも 分かち合い
 曰々に 精一杯 つとめます

法悦クイズ

【応募方法】

ハガキ、日高組ホームページにてご応募してください。

〇ハガキで応募

- 裏
- ① 法悦クイズの答え ※必須
 - ② 住所 ※必須
 - ③ 氏名(ふりがな) ※必須
 - ④ 年齢
 - ⑤ 電話番号
 - ⑥ 所属寺(〇〇寺) ※必須
 - ⑦ 「ひかり」に対するご意見
ご感想等

表

〒649-1113
和歌山県日高郡
由良町阿戸244番地
教専寺内 日高組事務所 行

63円
切手

〇ホームページから応募

日高組ホームページのメニュー内にあります応募フォームより、必要事項をご記入の上送信ください。

日高組ホームページへのアクセス方法

下記のいずれかの方法で、日高組ホームページにアクセスできます。

〇URLを直接入力してアクセス

下記のURLを直接入力してアクセスしてください。

<http://hidakaso.jimdo.com>

〇バーコード(QRコード)からアクセス

お使いのスマートフォン等にQRコード読み取り機能で右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。アドレス入力しなくても手軽にアクセスできます。



【応募締め切り】

2023（令和5）年5月31日（必着） 発表は次号です

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

Q .. 親鸞聖人の「誕生の地は
どこでしょう？

- 次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。
- ① 奈良県の「当麻(たいま)の里」
 - ② 京都の南東にある「日野の里」
 - ③ 岡山県久米郡の「稲岡の里」

一一八号の正解は「③90歳」でした。

親鸞聖人は90歳でご往生されました。ちなみに、親鸞聖人が師と仰ぐ法然聖人は80歳で往生され、蓮如上人は85歳で往生されました。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 滋賀県 | 佐野友基 様 | 由良町 | 岐山雄一 様 |
| 由良町 | 畑中靖子 様 | 由良町 | 小林民子 様 |
| 由良町 | 岩根登代美様 | 由良町 | 濱上 弘 様 |
| 由良町 | 濱崎香代子様 | 由良町 | 坂口泰子 様 |
| 御坊市 | 宮本みさほ様 | 日高町 | 濱 幸治 様 |

法話 『人生の目的』

「あした死ぬかもよ？」の著者ひすいこうたろうさんは、その本の中でソフトバンクグループ社長、口野球の福岡ソフトバンクホークスオーナーの孫正義孫正義さんさんのことを紹介しています。孫さんは一九五七年に佐賀県鳥栖市で生まれ、21歳の時、音声機能付き電子翻訳機を自ら考案します。これはのちにシャープで商品化し、電子手帳の原型に当たる商品となりました。その後、24歳の時たったひとりではじめた会社が26歳の時には社員一二五人に拡大し、売上高は45億円にまで急成長します。しかし、その矢先突然の病に倒れます。病名は慢性肝炎。それも肝臓がんへ進行する可能性の高い肝硬変守前の状態。死亡リスクの高い重病でした。医師からは、「5年は（命が）もつかもされないが、それ以上は・・・」と診断されます。

「会社も始動したばかり。子どももまだ幼いの、俺もこれで終わりか・・・。こんなに勉強してこんなに熱い気持ちで会社を起こしたのに、あとたった5年で俺の命は終わるのか・・・。なんのために仕事をしていたんだらう・・・。俺の人生はいつたいたんだっただらう」

入院当初孫さんは、夜な夜なひとりメモソソ泣いていたそうです。そんな入院中孫さんは、経営書、歴史書、コンピュータ書などあらゆる種類の本を三〇〇〇冊以上買い込んで病室のベットでむさぼり読みます。中学生のころ読んで感銘を受けた司馬遼太郎の「竜馬がゆく」も改めて読み直します。坂本龍馬は28歳で脱藩し、33歳で暗殺されるまでの5年間で日本を変えています。5年で革命を起こした龍馬の人生を改めて知り、「あと5年もあれば相当大きなことができるのではないか」と思い直します。そして、「たかが自分の命くらいでよくよくしてど

ないするんや。もっと大きく構えにやいかん」と思うきっかけになったのです。家もいらん。車もいらん。物欲は全部なくなつた。では、ほんとうにほしいものはなんだ？生まれたばかりの娘の笑顔がみたい。社員の笑顔も見たい。お客さんの笑顔も見たい。そんな想いのなかで、孫さんはおばあさんのことを想いました。おばあさんは、14歳の時、韓国から日本に渡ってきました。韓国籍で日本語もカタコト、知り合いもなく、おまけに戦争まで体験しました。「人様のおかげだ。どんな苦しいことがあっても、どんなに辛いことがあっても誰かが助けてくれた。人様のおかげだ。だから絶対人を恨んだりいけない」「人様のおかげだ」、これが、苦勞の連続だったはずのおばあさんの口癖でした。

死と向き合つて、孫さんは、「大事なのはお金じゃないんだ」そう気づいた。「地位でも名誉でもないんだ」そう気づいた。おばあさんがやっていたような、人に喜んでもらえること。そういう貢献ができたら幸せだ。入院してから、なおさらそう思ったそうです。「なんのために生きるのか？」「なんのために働くのか？」目的が明確になったのです。そして、3年の間入院退院を繰り返して迎えた一九八六年に画期的な治療法が見つかり孫さんは見事に復活し、完全復帰を果たしたのです。東日本大震災では、被災者支援のため、個人資産から100億円を寄付。二〇一一年から引退までの孫社長の報酬全額も、震災で両親を亡くした孤児の支援として寄付すると宣言します。「私の事業で、たとえば世界のどこかの小さな女の子がにっこり微笑む。そんな一瞬のために、業界ナンバー1になりたい。いつも本気でそう思っています」と人を笑顔にすることが孫さんの人生の目的となりました。

翻つて、皆さんの人生の目的は何でしょうか。親鸞さまは、「正信偈」のなかで、「如来所以興出世

唯説弥陀本願海」「お釈迦さまが、この世にお生まれになった人生の目的は、ただ阿弥陀さまのご本意の願いを説くことでありました」とお釈迦さまの人生の目的をお示しくされました。

私の恩師は、「如来」のところに自分の名前を、そして、「説」のところに「聴」にして読んでみなさい。と教えてくださいました。そうすると、「菅原がこの世に生まれでた人生の目的は、ただ阿弥陀さまのご本意の願いを聴くことでありました」となります。阿弥陀さまは、「ホンマに疑いなく、私の国、お浄土に生まれるとおもうて、念仏を申しながら精一杯生き抜いてほしい。その念仏する者が、どんな生きかた、どんな死にかたをしようとも、この弥陀は、あなたを決して見捨てることはしない。だから、安心して生きていき、安心してこの世の命をおえてきなさい」と願ってくださいています。この願いを聴くことこそが、私たちの人生の目的です。阿弥陀さまの願いのなかで、各々が、各々の人生を称名念仏申しながら、精一杯生き抜いていきましょう。

(菅原吉人)



宗祖親鸞聖人ご命日法要

御正忌報恩講が営まれました



ごしょうきおうほんこう
御正忌報恩講は、親鸞聖人の祥月命日（1月16日）にあわせておつとめする法要で、浄土真宗では最も大切な行事です。

親鸞聖人のご生涯は、阿弥陀如来のご本願をよりどころに常に自己をかえりみて、いのちの苦悩を超えてゆく歩みでした。

聖人のお姿に学び、み教えを明らかにされたご苦勞に感謝して、お念仏を深く味わわせていただきました。

○報恩の心

ゆいのうじょうしようにらいごう おうほうだいひくぜいおん
「唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩」

※親鸞聖人が著された「正信念仏偈」

（ただ常に如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべし）これは、「南無阿弥陀仏とお念仏を申しなさい、阿弥陀如来が私を救うために大変なご苦勞をなされたご恩に報いる」という意味です。



組内寺院では10月末から1月にかけて各寺院で報恩講法要が営まれました。浄土真宗においてはいちばん大切な法要として特に丁寧にお勤めされています。

門徒心得

親鸞聖人のご生涯

京都に生まれ、越後へ流罪となり、常陸で布教し、再び京都へと、旅の多いご生涯を送られた親鸞聖人。

厳しい修行こそが極楽浄土への道と言われた時代に、「どのような人であれ念仏をとなえれば阿弥陀仏によって救われる」という他力本願の教えを説かれ、多くの人々に救いの道を示されました。

一、ご誕生と法然聖人との出遭い

(一一七三～一二〇七)

親鸞聖人は平安時代末期一一七三年に京都の日野の里（現在の京都市伏見区）にて、日野有範の長男としてご誕生されました。その後9歳で得度し、比叡山で20年間厳しい修行を積まれましたが、迷いは晴れず、下山して聖徳太子ゆかりの六角堂に百日の参籠をされます。この時、夢のお告げに導かれ法然聖人に遭われます。

親鸞聖人は法然聖人の専修念仏の教えに深く共感され、生涯「法然聖人によって明らかにされた浄土往生を説く真実の教え」を継承し、さらに高めていくことに力を注がれます。

二、流罪となり越前へ

(一二〇七～一二二四)

知識のない者、修行ができない者でも、一心に念仏を称えればあまねく救われるとする専修念仏の教えは、多くの人々に救いの道を示しましたが、一方で、当時の仏教界においては異端視され、弾圧を受けることとなります。ついには朝廷への訴えにより、法然聖人は土佐へ、親鸞聖人は越後へと流罪になります。しかしその後も親鸞聖人は自らを「非僧非俗」（僧でも、俗人でもない）として、民衆に寄り添い、

他力本願の教えを伝え続けられました。

三、関東一円での布教

(一二二四～一二三二)

流罪が解かれた親鸞聖人は常陸（茨城）へ移り、20年にわたり布教されます。親鸞聖人は自坊を持たず、各地に簡素な念仏道場を設けて教えを説かれました。そのもとには多くの人々が集い、他力本願の教えは関東一円に広がり、二十四輩と呼ばれる高弟たちも生まれました。

他力本願の教えを著したのが『教行信証』で、浄土真宗の根本聖典とされており、この書が完成した日は立教開宗の日とされています。

四、執筆活動に心血を注ぐ

(一二三二～一二六三)

晩年の親鸞聖人は京都に戻り、執筆に心血を注がれました。また、親鸞聖人のお言葉は、弟子の唯円が記してとされる『歎異抄』に伝えられ、宗派の垣根を越えて今も多くの人々に影響を与えています。「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」（悪人こそが救われる）の一文は「悪人正機」の思想としてあまりにも有名です。親鸞聖人は80歳を過ぎてなお筆を取り続け、御年90歳にて、仏の本願に生き抜かれたそのご生涯を閉じ、ご往生されました。

(出典：真宗教団連合「親鸞聖人を訪ねて」参照)

(鈴木章吾)



仏教壮年会研修会（布教大会）

日高組仏教壮年会（工徳一夫会長）では1月26日、由良町蓮専寺において研修会として布教大会が開催されました。今回は教区布教団所属の3名の講師が約20分づつ登壇され、お取次ぎをいただきました。



海南組教法寺 森 薫師



有田南組善照寺 雑賀 聡師



紀南組善福寺 藤 俊乗師

シリーズ

過疎問題を考える

妙願寺 楠原晃紹

「法語印」に託す思い

法座活動や日頃の本堂への参拝の機会が、このところ減少していませんか。

「コロナ禍だから」という、取って付けた理由で参拝を控えてられる方もいらっしゃるかと思います。

しかしよくよく考えたら、もともとお寺参りの習慣が身につけていない世代の方がいかに増えてきているのかということに気づきます。

お墓参りには行くけれども、本堂は素通りされている参拝者がいかに多いかを憂いているのです。この機会にお寺に近いお墓参りの際は、必ず本堂の阿弥陀さまにお参りしましょう。



さて昨今、「御朱印」ブームと言われ、老若男女問わず、有名な神社仏閣に御朱印帳を手に巡らされているお話をよく耳にします。浄土真宗では、御朱印は用いないのですが、大阪の津村別院や京都の仏光寺などで「法語印」を参拝記念にしていることを知りました。

御朱印だとスタンプラリー的な意味合いもあるので、一度参拝するとその後は幾度も参拝はしないのではないかと思います。法語印だと毎回違う法語が手に入り、法語印を求めるリピーターも少なからずいるのではないかと推察できるのです。

実際に、今年の元旦に初めて法語印を作成して配布したところ、隣町から法語印を求めて来られた方もおられ、SNSでの情報発信の威力を痛感しました。法語印について、元旦会の参拝客に感想を伺いますと好評でしたので、御正忌報恩講にも配布、その後は毎月法語を替えて本堂内に自由に持ち帰りできるように置いていきます。

つまり本堂まで上がっていただける機縁を、法語印に託そうという試みであります。お墓参りのたびに本堂へのお参り習慣が身につけていただければとの思いです。

また、御正忌報恩講を一月七日、八日の両日に勤修した際にも記念として参拝者に配布したところでした。

過疎寺院において、新たな取り組みを通じて今までお寺にご縁が少なかった世代の方々に、浄土真宗のみ教えを伝える手段として、法語印を活用していくことを今後も継続してゆきたいと思えます。

あらゆる方法でお寺の魅力を発信しつつ、「行ってみたいお寺から始まり、行ってみよように、そしてあのお寺に行ってきたよ」となれるお寺を目指したいと考えています。



妙願寺の法語印 左は諦聴（観無量寿経より引用）右は六字名号 お地蔵さんのイラストを合わせています。右上印は「遇無空過者」



「門徒総代会」 後期研修会に 35名がお聴聞

2月11日開催（8ページ参照）

門徒総代会（田端三津雄会長）は、昨年より延期していた後期研修会をこのほど由良町網代の念興寺にて開催されました。久しぶりに顔を合わせた総代さんらは、口々に近況を語り合うなど、コロナ禍の生活習慣が一変した様子とその研修会が無事開催できたことにホッと胸をなでおろしていました。



読者の声

※法話の中で、コロナとハンセン病に触れられていて、漠然とした知識しかなかった私ですが、勉強してあまりの人権侵害に心が痛みました。未だに残る差別の無い社会になってほしいと願います。

※いつも楽しく拝読しています。毎号ためになる内容で知識も増えています。新型コロナ感染症がまた拡大しているこの頃ですが、仏壇に手をあわせる機会が大変増え、ありがたさを感じています。これからも充実した内容で「ひかり」をお届けください。

※御文章の現代語訳や大意などがとても詳しくわかりやすく良かったです。個人的に蓮如上人ゆかりの御旧跡を巡っており、先日鷺森別院にお参りしたところ「ひかり」を手にして読ませていただきました。これからも親鸞聖人や蓮如上人にお導きいただきながら歩んでいきたいとおもいます。

※いつも「ひかり」拝読し、数々のことを教わりうれしく思っております。また一年をとりましたがいつまでも、愛読させていただきます。

※はるか遠きところから、はるかな昔の「ひかり」が、いま私の身辺に心に頂ける有難さ、誠にありがとうございます。

※いつもひかりを読ませてもらい、いい勉強になります。毎朝主人と仏前で讃仏偈をおつとめしています。今後も「ひかり」楽しみにしています。

※オミクロンワクチン5回目接種終えました。無事にここまでこられて良かったです。一日も早い終息を願う日々です。

※文章にあまり縁が少ない私でも本当に読みやすい「ひかり」。写真やイラストを交えさせ読者の気持ちになって作成された「ひかり」こんな私でも読めます。

※前回クイズに当選しました。ありがとうございます。ございました。「ひかり」毎号楽しみにしています。

※仏事の作法について、新たに確認できる記事があり「知らなかったな」と、何歳になっても学ぶことの切っ掛けになりました。

※紙面が明るい感じになり見やすくなりました。毎号興味深く拝読させてもらっています。

※今回の「ひかり」で語句の勉強させてもらいました。

※いつも「ひかり」を楽しみにしています。コロナで法話をいただく事が少なくなっているのも勉強になります。

日高組通信

【行事報告】

★ 第27回真宗法座

12月11日(日)に由良町里、蓮専寺にて開催されました。ご講師に滋賀教区滋賀組福田寺の佐々木義英和尚をお迎えし、「正信偈のころ」の演題で親鸞聖人が師と仰ぐ七高僧の紹介から阿弥陀さま、七高僧さまへのご恩報謝をとともに味わわせていただきました。

★ 組内会(第2回・第3回)

第2回は12月17日(土)日高組事務所(教専寺)にて、第3回は実践運動推進僧侶研修会を兼ねて、2月18日(土)、由良町衣奈の信行寺にて開催されました。

★ 仏教壮年会研修会(布教大会)

1月29日(土)由良町里、蓮専寺にて教区布教団所属の3布教使による布教大会が開催されました。

★ 寺族女性会総会

2月4日(土)由良町里、光専寺にて総会が開催されました。

★ 広報部(編集委員会)

2月6日(月)日高町柏、善宗寺にて119号ひかりの編集委員会が開催されました。

★ 門徒総代会後期研修会

2月11日(土)由良町網代、念興寺にて開催されました。講師は有田北組極楽寺の三浦良成住職でした。

【行事計画】

★ 実践運動推進委員会

3月4日(土)日高町志賀、妙願寺にて開催予定。委員会終了後、団体参拝実行委員会が開催予定。

★ 日高組定期組会

3月25日(土)午後2時から由良町衣奈、西教寺にて令和4年度定期組会が開催予定。